

2 ICTを活用した安全・安心な暮らしづくり

福祉・保健・医療や環境、防災等の分野において、ICTの活用を推進します。その際、行政側の視点に偏ることなく、県民が自ら求める情報を必要な時に活用できることを重視し、安全・安心な社会の実現を目指します。

(1) 安全なぐんまの実現

【現状と課題】

平成23年3月に発生した東日本大震災後、県民の防災・安全に関する危機管理意識は、ますます高まっています。警報注意報・地震など、自然災害に関する第一報の連絡手段として、広く活用されている防災情報システムは、より迅速に情報を収集し、集約していく必要があります。

防災情報システムは、全国で進められているLアラートとの連携には現時点では未対応です。また、水位雨量テレメータシステムは、河川の水位や雨量をテレメータシステムで観測収集し、水防活動に活用されていますが、画像による河川情報の提供機能がないため、洪水の危険性を視覚的に住民に伝えることができません。これらICTを活用した防災関連のシステムには、住民に有益な情報を確実・迅速に伝達できるよう機能の拡充が求められています。

犯罪や交通事故に関しては、その発生件数を減らすために、ICTの活用により、県民自らが犯罪に巻き込まれないよう、また、交通事故に遭わないよう、意識を向上させる必要があります。

【施策の方向性】


■ 防災・減災に関する情報提供体制の整備

災害による県民の被害を最小限にとどめるため、防災情報システムや水位雨量テレメータシステムなどICTを活用したシステムについて、災害関連情報を効率的に収集するための機能、迅速かつ確実に県民等へ伝達するための機能を拡充していきます。

■ 防犯・交通安全に役立つ情報の提供

防犯や交通事故対策では、統合型GISの活用などにより、ICTによる情報提供を一層充実させ、県民にとって役立つ情報を発信していきます。

【主な取組】

 県、市町村、消防本部、地域機関及び防災関係機関等を、防災行政無線回線網を利用した情報ネットワークで結び、各機関が収集・伝達した災害関連情報等の共有化を図るとともに、Lアラートと連携し、市町村の発令する避難関連

情報等を多様なメディアを介して発信することにより、県民の防災、減災につなげます。〔総合防災情報システム運用〕

✚ 台風、大雨や地震時に県民及び防災関係機関が共有すべき気象、河川水位、土砂災害危険度情報などの防災情報を一元管理し、必要な情報を迅速に閲覧できる環境を提供し、市町村が災害警戒避難体制を構築する際や、県民が自主避難する際の判断の参考となるようにします。また、災害等に伴う県管理道路等の通行規制に際し、県民に向けて規制区間情報を迅速・的確に情報発信します。〔災害情報共有システム〕

✚ 水害の危険性や避難の必要性を確実に伝達することと併せて、カメラ画像を使った河川情報を提供するため、水位雨量テレメータシステムを改修します。〔緊急防災対策事業〕

✚ 県警からの不審者情報や犯罪情報等を希望する県民に対して、速やかに電子メールで配信し、県民の安全と防犯・交通安全意識の高揚を図ります。〔上州くん安全・安心メール〕

✚ 犯罪発生・不審者情報や交通事故発生マップ等地域の安全安心情報を統合型地理情報システムを活用して提供し、県民の安全安心の確保と防犯・交通安全意識の高揚を図ります。〔防犯・交通事故情報(マッピングぐんま)〕

【指標】

項目	現状(H27年度)	目標(H31年度)
上州くん安全・安心メール登録件数	38,888件	50,000件

(2) 優しいぐんまの推進

【現状と課題】

高齢化が進んだことによる医療ニーズの増加や病院勤務医の不足によって、地域において救急医療をはじめとする医療の提供が十分に行えないケースが見られます。誰もが安心して医療を受けられる環境の整備に向けて、限られた資源を効率的に活用するための救急医療等の各種医療情報のさらなる共有化の推進が求められています。

超高齢社会が進展するなかで、要介護状態になっても可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように、孤立防止や介護予防の活動への参加を促す取組が進められています。一方で地域において活躍できる人材として

高齢者の豊富な経験を活かした社会参加・社会貢献を促すための情報提供の充実が求められています。

障害のある人にとって、情報を取得し、意思表示やコミュニケーションを行うことは、日常生活を営む上で必要不可欠です。特に緊急を要する場合には、情報通信機器を活用し円滑に意思疎通が図られなければなりません。

生活環境への社会的な関心の高まりから、大気汚染等の測定システムの整備を進めてきました。県民を健康被害から守るため、今後とも県民に向けて迅速に様々な環境情報を発信する取組を進める必要があります。

少子化が進行し続けていることから、家庭と仕事を両立できるようにICTを活用した働き方改革が求められています。また、生涯未婚者の増加や晩婚化による子供の数の減少に対応するための取組を普及・促進する情報発信の充実が求められています。

【施策の方向性】

■ 県民が求める医療情報の提供

医療機関や消防機関等の持つ医療情報を共有化し、県民が求める医療に関する情報の提供を推進します。

■ 高齢者や障害者が地域で元気に暮らせる情報サービスの充実

地域で元気に暮らすことができるよう、高齢者の外出を促す情報提供を充実させるとともに障害者の意思疎通を支援していきます。


■ 環境情報のきめ細かな提供

安全な暮らしを支える身近な生活環境の保全活動に役立つような環境情報のきめ細かな提供に向けた取組を促進します。

■ 少子化対策を支援するICTの活用

場所にとらわれずに働くことができるテレワーク等の働き方改革に取り組む企業・団体を支援します。結婚や子育てを応援する情報を広く収集・発信します。

【主な取組】

 ICTを利用したシステムの運用により、県民が受診可能な施設等の医療情報を得やすくするとともに、災害発生時には医療機関の稼働状況等に関する情報を行政機関や消防機関等と共有します。更に、救急車や救急医療機関にタブレット端末やスマートフォンを配置することで応需情報や搬送情報の共有化を進め、救急要請から救急医療機関への搬送までに要する時間の延伸を防ぎま

す。これらの取組により、県民に各種医療（救急医療、災害医療、周産期医療）をより効率的・効果的に提供します。〔統合型医療情報システム運用〕

✚ 元気な高齢者が社会参加や社会貢献活動をするための情報を適宜提供し、高齢者の社会参加を支援するとともに、県内在住の65歳以上の高齢者が店で提示すると割引などの優遇措置が受けられる「ぐんまちょい得シニアパスポート（ぐーちょきシニアパスポート）」の協賛店一覧を県ホームページに掲載し、高齢者の積極的な外出を促すとともに地域との交流や自身の健康維持につなげます。〔ぐんま元気シニア応援ネット、ぐんまちょい得シニアパスポート〕

✚ 聴覚障害のある人が、社会生活、日常生活における意思疎通のための手段を確保できるよう、電子メール・ファクシミリを中継する事業やタブレット型端末のテレビ電話機能を通じて実施する電話リレーサービス事業を支援します。さらに、タブレット型端末のテレビ電話機能を通じて、手話通訳者が画面越しに手話通訳を行う、遠隔手話通訳サービス事業を実施し、コミュニケーション支援を図ります。〔聴覚障害者FAX・メール、電話リレーサービス中継、遠隔手話通訳サービス〕

✚ 県内各地の大気測定局に自動測定機を設置して常時監視を行うとともに、各地点の測定データを、インターネット回線を通じてリアルタイムで発信し、大気汚染が著しいときには、注意報等を発令します。〔大気汚染常時監視〕

河川や湖沼、井戸水などの水質調査や道路交通にかかる騒音測定、放射性物質の飛散等に関する環境調査結果をホームページ等で情報発信することにより、県民の健康被害等の発生を防止し、安全・安心な生活を守ります。〔身近な生活環境の保全〕

✚ 従業員のワーク・ライフ・バランスや働きやすい職場づくり等を推進する企業を県が認証する「群馬県いきいきGカンパニー認証制度」等を通じて、「テレワーク」等の多様な働き方の普及を促進しています。また、群馬県においても、職員のワーク・ライフ・バランスの充実や、育児・介護中の職員の負担軽減を図るため、場所にとらわれない柔軟な働き方の一つの選択肢として、サテライトオフィス形式のテレワークを試行導入します。〔働きやすい職場環境づくり〕

✚ 結婚から妊娠・出産、子育てまでライフステージに応じた各種情報を発信するポータルサイトを設置し、結婚や子育てを応援する機運醸成を図り、県民の家族形成を支援します。〔結婚・子育て応援ポータルサイト、ぐんま結婚応援パスポート、ぐんまちょい得キッズパスポート〕

【指標】

項目	現状(H27 年度)	目標(H31 年度)
救急要請から救急医療機関への搬送までに要した平均時間(統合型医療情報システム運用)	36.4 分	現在の水準を維持

桐生市等のICT活用事例

桐生市、桐生市社会福祉協議会、桐生市民活動推進センター「ゆい」を管理するきりゆう市民活動推進ネットワークは、市民による社会貢献活動の促進を目的としたポータルサイトである桐生市民活動応援サイト“ゆいねっと”を共同で開発しました。

“ゆいねっと”の特徴

「ゆいねっと」は、電子メールを自動発信するマッチング機能を有しており、パソコンやスマートフォンなどの端末で登録団体に関する情報やボランティア募集情報、イベント情報、その他市民活動関連情報を探ることができます。

“ゆいねっと”のねらい

- ✚ 「何か人の役に立ちたい、ボランティア活動をしてみたい、社会貢献をしたい」という方々のためのきっかけを作ります。
- ✚ 仲間を集めたいという団体や色々な活動に参加したい方々をつなぎます。
- ✚ たくさんの人と人との優しさと善意で結びつけ、「支えたい、手伝いたい」という『思い』と「支えて欲しい、手を貸して欲しい」という『願い』をつなげます。

孺恋村の I C T 活用事例

孺恋村では、高齢者が健やかに暮らせるむらづくりを実現するため、「ICTを活用した身体活動維持向上プログラム」を展開し、高齢者の健康増進を図っています。

ICTを活用した身体活動維持向上プログラムの概要

- ✚ 高齢者に対して、積極的に歩くきっかけとしてもらうとともに健康増進に活用してもらうため、NFC（※1）対応活動量計を配布します。
- ✚ プログラムの参加者に、身体活動維持向上の必要性に関する講話や運動講座を行うとともに、活動量計・タブレットの利用方法をレクチャーします。
- ✚ 活動量の確認やウォーキングイベントの進捗状況、趣味の情報等、タブレットのコンテンツを利用してもらうため、公民館等コミュニティ施設にタブレットを設置します。それにより、高齢者が身近な場所に集い、情報交換等を行うことを促し、地域コミュニティの活性化を図ります。
- ✚ プログラムの初回と最終回に身体・体力測定を行い、身体活動維持向上の成果を評価します。

※1 Near Field Communication の略称。通信距離 10cm 程度の近距離無線通信技術。機器を近づける事で通信を行うため、「かざす」動作をきっかけとして、非接触 IC カードや機器のデータ通信を簡単に行う国際標準規格。